

原発事故や津波を想定した避難計画の見直し必要



市議会
全員協議会

党議員がそれぞれの視点で指摘

2月7日、能登半島地震の被害状況と一連の対策などについて行政から説明を受ける市議会全員協議会が開催されました。

最初に、市側から今回の地震による市の被害状況、避難所の開設状況、被災者生活支援、事業者支援、今後の課題などについて説明がありました。それを受けて議員側は約1時間半にわたり質問を行いました。

各議員から指摘相次ぐ

各議員からは、「津波の避難対象は対象地域全員のはず。避難場所の運営管理はどうなっていたか」「地震はいつやってくるかわからない。地域防災計画の見直しは素早く行うべきだ。いつまでにやるのか」「指定避難所であっても鍵が開かなかったり担当職員がこれなかったりするとところがあつた。地震の際には避難者が

鍵や戸を壊すなどはどこまでやっていいのかすぐ伝えたいものがある」などの質問が相次ぎました。

行政側の答弁を聞くと、避難所、避難場所などの状況把握はまだ時間がかかりそうですが、次の大地震がすぐ来るかもしれないという学説もある中で、対策は急ぐべきです。

原発に触れないのか

橋爪議員は、「市長の『万全だった』発言の背景には情報市長に届いていない面もあるのではないか。議会にしっかりと説明すべきだ」「今後の課題検討に原発の重大事故時の避難計画（見直し）がないのはおかしい」「大島区板山地区の県道崩落が未だに『交通止め解除未定』では納得できない。もっと情報を出し、一刻も早く復旧させてもらいたい」などの点を指摘しました。

これに対して担当部長は、「その後、市長は対策本部会議などで課題もあるという認識で動いている」「原発の点は極めて重大な喫緊課題を突きつけられたと認識している。今後市町村研究会を通じて対処していく」「板山の道路は3月上旬に国の災害査定が予定されている。現在、復旧方法についての設計及び積算を実施している。当市としても来年の降雪期前までに終わらせるよう、強く要望している」と答えました。

避難計画見直しを

上野議員は、「3・11の教訓を踏まえて津波を意識した避難行動や避難計画をしっかりと練り直す必要があるのではないかと」「能登では建物がつぶれて圧死する例が多かったが、家屋の耐震

改良の取組を今後どうやって活かしていくのか」「指定文化財や国登録有形文化財の復旧支援をどうやっていくのか」などと指摘しました。

これに対して八木副市長は、「新年度の予算の中で、この能登半島地震の教訓に基づいて防災力の強化という部分で予算をパッケージ化した」と答え、担当部長は、「文化財の被災状況も把握しているので、公的資金をどのように投入できるか」という部分は承知している」と答えました。

避難所運営の分析は

平良木議員は、「避難所の開設については実態把握に基づいた分析が必要だ。市職員が開設した避難所は何箇所、施設管理者が開錠した避難所は何箇所、避難者よりも遅かった避難所は何箇所という状況に基づいて、職員が遅れた理由を分析し、対策を検討すべきだがどうか」「避難所に避難した人は、一般的な情報からは隔離されてしまう。避難所にはテレビやラジオなどの情報源は準備されているのか」「避難所の開設・運営に当たる市の職員は、毎年の年度初めに開設と運営の訓練をしているのか。支援物資や暖房器具などを実際に稼働する訓練が必要だ。勤務時間中に位置つけて行うべきだ」と指摘しました。

これらに対して、担当部長は、抽象的ではありましたがそれぞれについて検討するとその前向きな答弁をしました。

能登半島地震で「避難計画は机上の空論」が明らかに

能登半島地震は、原子力防災の問題をも明らかにし、避難は不可能であることが実証されました。

国の原子力災害対策指針に基づいた石川県の避難計画では、同原発から30キロ圏内の約15万人が、自家用車やバスなどで避難することになっています。しかし、今

回の地震で、避難ルートとなっている山間部や沿岸の道路の多くが、土砂崩れなどで通行不能です。15万人の内約3万人は、今回被害が大きかった珠洲市、輪島市、能登町に避難する計画でした。

結局「避難計画」は机上の空論だったことが明らかになりました。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.824 2024年2月18日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))
ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>

警報級の増加 昨年9月並み!

上越保健所管内
新型コロナウイルス感染症
感染者定点報告数

1月15日～1月21日	13.50	(県10.08)
1月22日～1月28日	16.50	(県14.84)
1月29日～2月4日	26.88	(県18.92)